最高の贈りもの

1946年3月14日、ドラ・デ ル・オヨはオプス・デイへの 所属を願い出ました。あらゆ る状況の中で聖性の普遍的召 し出しを伝えるために牛涯を 捧げる何万人もの女性の中 で、家事を専門職とする最初 の召し出しでした。聖ホセマ リアは、聖ヨセフの祝日に、 ドラのこの願いを受け取り、 次のようにコメントしていま した。「これまでの霊名の日 の中で、最高の贈り物をもら いました。

1945年、創立者は更なる新しい計画を娘たちに伝えます。もう一つの「とんでもないこと」です。ビルバオでその年の9月に学生寮を始めること、そのために、管理部で働くことができるような人材を育てることができるような人材を育てることを考えました。「この計画が順調に進むために、ドラほどの人材は他にない」と。

ドラが、夏の間、両親の家で休暇を 過ごしていると、ニサからの手紙が 届きます。もう一度、この新しいた 画に協力することをドラに頼むたれま です。後年、ドラはこう語って紙を す。父親は、ドラに届いた手紙を し、中身を見ていなかったにもり とずこう言いました。「例のだろ に来てほしいと頼んでいるのだろ う」。ニサたちがビルバオでドラを 待ってとを知ると、ドラは はっきり言います。「ビルバオの対 生寮には行きません」。それにかな 生寮にはこう言います。「行かな い。・・・行って嫌なら帰って来のの いい」。く反対でした。後年、ドイツ とは全っています。私がオプス がなので がなのです。

こうして、ビルバオへ向かいます。 モンクロア学生寮で一緒に働いてインチャ・アンドレスもビルバオに移りました。学生寮は、1944年のマドリードでの状況と似たよらがは改築中でした。建物は改築中ではがあることをでした。でした。でした。でしませんでした。他に雇われていました。他に雇われていました。他に雇われていました。他に雇われています。 理人はメニューが気に入らず、腹を立てて料理をしないこともあり、そのような時は2人で用意しました。 調理やアイロン掛けもこなし、木の床にはワックスを引き、いつもきれいに輝かせていました」。

多忙でも、皆、幸せでした。1月6日 にはクリスマス・プレゼントとして 喜びに溢れた贈り物を受け取りま す。『道』という本でした。聖ホセ マリアが書いた最初の本で、すでに 出版されていたものでした。この1 冊の本が霊的生活にどのような影響 を与えたか、ドラが説明していま す。「『道』に夢中になりました。 度々、霊的読書として、よく『道』 が使われていました。一つひとつの 問いかけにこう思ったものです。こ れは、私に言っていることだ、と。 夢中になって一気に読み終えまし た。寝ることも忘れて、全部読んで しまいました。次の日、当時、責任 者だった二サにこう聞かれました。

『贈り物の本はどうでしたか?』 私は、素晴らしい本で、読み終わるまでやめることができませんでした。とてもきれいな内容ですから、と答えました」。

神が、更に何か自分に頼んでいるとその自分に頼んです。神はドラは感じ始ます。神はドラにかられているとでいたの全てを頼んでいる2歳りない。独身生活を送りいるとはいるで、独身生活をといるととはいるで、独身生活をといるでででながでででない。本ででは、本ででは、などを説明しました。

ここでも、慎重に明確なアドバイス をくれたのは父親でした。もう大人 なのだから、適切だと思うことを自 由に決めることができる、しかし、 よく考えなければならない。神に全 てを捧げることを決心したら、それ は死ぬまで続けることであり、後に なって、その道を捨てることはでき ないのだから。

1946年3月14日、オプス・デイへの 所属を願い出ます。17日にはコン チャ・アンドレスが。この2人は世 界で最初のアシスタント・ヌメラで最初のアシスタントのの であり、家事を果たすための専門外を がを磨き、その分野に対り るとなりました。聖ホセマリアは、取 り、でのようにコメントしていま す。「これまでの霊名の日の中で、 最高の贈り物をもらいました」。

ハビエル・メディダ「燃える光、ドラ・デ・オヨ」(パラブラ出版、マドリード、2012年)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/saikono-okurimono/ (2025/10/29)